# 文化財をたずねて

No.17

発行　赤穂市教育委員会
編集　生涯学習課文化財係
（赤穂市加里屋81　TEL 43-6962）


## 塩屋地区の文化財めぐり（山地編）

塩屋地区は、南方の平地部と北方の山地部に分かれるだけでなく、歴史的発展の時期が異なる。平地部では新規の塩田開発が相次ぎ、製塩業が隆盛を極めた江戸時代の歴史的遺構が中心であるのに対して、山地部は主に古代以前のものが多い。縄文時代の遺物が山間部の高山、桜谷で発見され、また古代以前の海岸線に近い山裾に立地する塩屋・築田遺跡、堂山遺跡からも出土している。古墳時代には大林古墳群が築造され、烏谷、高山からは須恵器の出土がある。烏谷では平安時代の布目瓦が出土し、その奥の山麓には平安時代の岩屋寺跡が存在する。戦国時代には、山城の存在が古文書に記されている。横谷には民間伝承が多く残り、北方山塊によって隔てられた真殿地区に通じる山道が近代以前まであった。真殿などへ行くには千種川沿いに廻るよりも速いため、長い間人々が往来していた。

①横谷住居跡

### ①横谷住居跡

『播州赤穂郡志』に「塩屋村は鱧谷よりの出村也。鱧谷は正面荒神山の後、横谷溜池の谷なり。」と記されており、塩屋村の起こりが塩屋荒神社の背面山塊の合間にある横谷の地であったと伝えられている。

現在は、石垣や井戸の石組等の遺構が残るのみであるが、大正時代まで人々が生活していた。古くから横谷周辺には、塩屋村の前身となる集落が存在したことが窺える。

②横谷地蔵

### ②横谷地蔵

横谷は以前の山道沿いにあり、塩屋には今も「まとの越え」と言う言葉が残っている。「まとの」は、山を隔てた北方の真殿を指す。その山道を見守るかのように地蔵が建てられている。

地蔵は、高さ0.66ｍを測る。銘文には、大正８年（1919）に造られたことが彫り込まれている。

赤穂の名所として「御崎の浜、横谷の流れ、興少なからず」とも伝えられる。また、雲火焼の創始者大島黄谷は、雅号を横谷の木偏を取って黄谷とした。作陶の合間に度々横谷を訪れ、自然美を鑑賞していたと言われる。

③八畳敷

### ③八畳敷

横谷の山道にある広い岩場には、金玉袋を八畳くらいまで広げて旅人を襲っていた古狸が若者に退治されたと言う、「横谷の八畳敷」の昔話が伝えられている。（『赤穂の昔話』第１集）

### ④おも石（主石）

横谷渓谷を流れる川の中に家のように大きな岩があり、川の主であると伝えられている。

### ⑤烏谷布目瓦出土地

布目が施された平安時代の瓦が、ミカン畑の開墾中に出土したと言われる。

④おも石（主石）

## ⑥烏谷観音堂

天長（てんちょう）年間（824～834）に、弘法大師空海（こうぼうだいしくうかい）が2体の観音像を石に刻んだと言われる。その際、1体は魚供養（くよう）のために海へ、1体は鳥獣供養のために山へ埋められた。戦国時代末に塩屋村西町の九右衛門が海から発見した観音様が西町にある西の観音様、享保（きょうほう）6年（1721）に善四郎と言う人物の夢見によって掘り出されたのが東の観音様、すなわち烏谷観音であるという。善四郎が烏谷に観音堂を建て、自らは出家し名を頓入（とんにゅう）と改め、法師となって供養したと言われる。

⑥烏谷観音堂

## ⑦お鐘（かね）石

現在、私有地のため立ち入ることはできない。

高さ約2.4ｍ、幅約1.8ｍを測る。寺院の梵鐘（ぼんしょう）の形をしているため、「お鐘石」と呼ばれる。この石とおんびき岩・牛岩を合わせて「塩屋三岩石」とも言われる。この三岩石には「仲のよい三つの岩」と言う昔話が伝えられている。正月三日になると、大きな声で鳴いていたと言う。（『赤穂の昔話』第1集）

また、この岩石と谷を隔てた西方の山の上にあるおんびき岩を結ぶ線は、春分・秋分の日に太陽が昇る方角、すなわち真東を示すと言われている。

### ⑧大林古墳群

現在、私有地のため立ち入ることはできない。

塩屋地区の烏谷とハブ谷、横谷の間を南に伸びる尾根上に立地する。昭和44年（1969）当時には、4基の古墳により構成されていたことが確認されているが、現在はミカン畑の開発などによって消失している。周辺には古墳の石室に使用されるような巨石も散乱しており、本来はもっと大規模な古墳群だったのだろう。

昭和29年（1954）に、2号墳が調査されている。南開口の横穴式石室の中に、組合式箱式石棺が造り付けられていた。横穴式石室は全長1.98ｍ以上、幅0.54ｍ以上、高さ0.5ｍを測る。組合式箱式石棺は全長1.28ｍ以上、幅0.54ｍ、高さ0.5ｍを測る。出土遺物から7世紀前半の築造とされる。

⑦お鐘（かね）石

### ⑨おんびき岩・牛岩

「おんびき」とは大蛙（おおがえる）のことを言う。道路の上側には大蛙の形をしたおんびき岩、下側には大牛が寝た形をした牛岩がある。

おんびき岩の下方には「子供おんびき」があったが、道路拡張の際に行方不明となった。

牛岩は昔、「たきもんをする（薪取りをする）」時、「ねばせんか。（束にする）」と言って、牛岩の背の上に集まり薪（まき）を整えたりしていたと伝えられる。

⑨おんびき岩

### ⑩２重の石垣（今荒神の砦（とりで）跡）

現在、私有地のため立ち入ることはできない。

西方の大津、南方の瀬戸内海、東方の尾崎が見渡せる小字今荒神の山頂付近に、2重の石垣が見られる。現在見られる石垣は牧場開拓の際に積まれたものであるが、昔の砦跡を偲（しの）ばせるものである。現在の石垣の付近に、砦跡の石垣が存在したとも言われる。『播磨鑑』には「浮田記ニ曰（いわく）『赤松氏政則幼主ヲ携（たずさえ）テ（下野前司政秀カ）播磨塩屋（赤穂郡）ノ壘（るい）ニ入ル』ト有（あり）、此（この）古城（赤穂古城）ノ事カ、又ハ塩屋山ノ事ナルカ」と記されており、塩屋の山中に戦国時代の山城が存在したのかも知れない。

⑩２重の石垣（今荒神の砦（とりで）跡）

### ⑪赤穂ピクニック公園

赤穂ピクニック公園は高山にあり、牧場として使用されていた丘陵地を利用して、市街地から瀬戸内海にかけての展望、四季折々の花や実、紅葉が楽しめる公園として、平成12年（2000）にオープンした。

広場や野外ステージがあり、林間散策道や百花園（赤穂の森）には赤穂を代表する植物を主に、魏志（ぎし）倭人伝、万葉、生島樹林の植物探索コースが設けられている。

⑪赤穂ピクニック公園

### ⑫高山（市章植栽樹、石粉採取地跡）

標高約303ｍを測る。旧塩屋村の北側の山々の中で一番高い山である。山腹には赤穂市の「赤」字が、バベガシと椎の木によって昭和47年（1972）に浮彫植樹されている。またその下方にはかつて石粉採取地があった。以前は米を精米するため、農家の人々がここでよく石粉を採っていたと伝えられる。

また、縄文土器や石鏃、須恵器の出土の言い伝えがある。

その他、「金時さんが小豆島からビューンと跳んだ時に左足が高山に、右足が西山畑についた。」との昔話がある。（『赤穂の昔話』第1集）

⑫高山（市章植栽樹、石粉採取地）

⑬岩屋寺跡（薬師寺跡）

### ⑬岩屋寺跡（薬師寺跡）

５間四方の建物跡であり、周囲には土塁と溝が巡っている。表門付近から採集された須恵器は、10～11世紀のものである。

以前、加里屋新町に所在した長安寺の縁起によれば、ここにはその前身の岩屋寺があったと記されており、修験道に関係のある寺院であったと考えられる。また、聖徳太子が活躍した時代の僧恵便・恵聡がいたと言う伝承や、天台庵主円仁によって薬師如来像が製作されたとも伝えられている。

岩屋寺には真殿からも参詣したと言われ、そのため真殿地区には「門前」の地名が今も残る。

⑭西御大師さん（大師堂）

### ⑭西御大師さん（大師堂）

以前は炭屋台に祀られており、塩業に従事する塩屋の人々の信仰と集いの場であったと言われる。昭和31年（1956）に現在の桜谷に移された。また、建物が老朽化していたため、昭和56年（1981）に再建された。

本尊は、自然石に浮彫りが施された60㎝程度の大師像である。他にも大正時代に流行病でなくなった人々への供養のための観音像１体と大師像２体が安置されている。毎月１、15、21日には御詠歌が詠唱される。

⑮桜妙山蓮岳寺

### ⑮桜妙山蓮岳寺

桜妙山蓮岳寺は、「岡山最上稲荷神社赤穂支所」として建立。

蓮岳寺や大師堂のある桜谷からは、縄文土器が出土したとも言われる。また、桜谷の麓の字奥田は、播磨国主大伴宿弥がハブ山を開発した際に桜谷の奥も開墾したため、奥田と呼ばれるようになり、塩屋で最も古い田と伝えられる。

⑯忠魂碑

### ⑯忠魂碑

以良羅山の山頂に、大正13年（1924）に建立された。忠魂碑には、246人の戦没者が祀られている。碑文の文字は、旧日本帝国軍東郷平八郎元帥の書である。折方出身の松崎伊織中将が東郷元帥の副官を２期勤めた関係から書をなした、と言われている。

忠魂碑のある以良羅山は「イララ」山と読み、古代韓国語で津を渡る場所という意味から、船の発着場であったとも考えられる。

⑰堂山遺跡

### ⑰堂山遺跡

縄文時代から中世にかけての遺物が出土する複合遺跡である。弥生時代の土抗、古墳時代の竈跡、平安時代後期に始まる揚浜系塩田の採鹹土抗（沼井）や防波堤などの遺構が確認されている。また、弥生時代末期から奈良時代頃にかけての製塩土器も出土している。

周辺は現在でも標高１m以下の低地が多く、防波堤のなかった時代には遺跡のある山裾まで海水が入り込み、遠浅の干潟が広がっていたと考えられる。

（調査協力：神坂晴子、清原繁、長棟三枝、西中正次郎、松下敏、山田春美）